

科目名	地域養生看護学(在宅概論)			ナンバリング	INE131	授業形態	講義
対象学年	2	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	2単位
代表教員	スーティ神崎和代	担当教員					

授業の概要	<p>本科目は以下の内容を中心に講義をする。 地域で生活しながら療養する個人やその家族を生活者として捉える視点を養い、療養者が暮らす地域の成り立ちと社会資源を知る。病院内での看護と在宅看護の違いを理解した上で、療養者や家族の在宅療養継続を支援するための対応方法などを学ぶ。加えて、療養者のライフサイクルに応じた在宅看護(そのライフサイクルの課題、特徴などの理解)を理解し適切に対応できる能力の基礎力を培う。</p>
到達目標	<p>1)在宅看護の対象者の説明ができる。 2)病院内看護と在宅看護の違いを説明できる。 3)対象者別の特徴と課題を述べるができる。 4)在宅医療システムに係わる法律の説明ができる。 5)療養者を支援するために社会資源と他職種連携の在り方を説明できる。</p>
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	<p>学生自身が居住している地域の方たち、祖父母らの生活に関心を持って、機会を作って話を聞いて、通院しながら生活をしている人達を知ってください。また、地域のボランティアに参加することも地域の暮らしと人々を知る良い機会になるでしょう。</p>
ディプロマポリシーとの関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】
	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。
	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。
	○ 3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。
	○ 4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。
	○ 5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<p>① 在宅看護の対象者は誰(Who)かを述べるができる。 ② 病院内看護と在宅看護の違いを少なくとも5項目述べるができる。 ③ 対象者別の特徴と課題を少なくとも3項目述べるができる。 ④ 介護保険法、高齢者の在宅ケア、地域包括ケアシステムの関係を論拠をもって説明できる。 ⑤ 在宅療養者が活用する社会資源を少なくとも7項目、連携をする5職種述べるができる。</p>	<p>① 在宅看護の対象者を全て述べることができ、その特徴も説明できる。 ② 病院内看護と在宅看護の違いを述べた上で、在宅(訪問)看護師の特徴を説明できる。 ③ 対象者別の特徴と課題を述べた上で、疾病との関係を述べるができる。 ④ 介護保険法と医療法を説明し、地域包括ケアシステムの背景と課題を述べるができる。 ⑤ 在宅療養者が活用する社会資</p>

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○			○		80点
授業態度・授業への参加			○	○	○	○	20点
出欠状況			○	○			欠席は1回5点の減点 1/3以上の欠席:期末試験不可

課題、評価のフィードバック	提出したレポートは返却しないが、学生から要請があった場合は開示するように準備しておく。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	在宅看護の定義と歴史的背景	在宅看護の定義と背景。病院看護師との違いと特徴	
	第2回	在宅看護における対象者の理解	全ての年代/疾病を対象とする在宅看護の特徴と療養者理解	
	第3回	在宅看護と異文化アセスメント	異文化アセスメントの6項目の理解と療養者理解への応用。	
	第4回	在宅看護と社会資源	在宅看護で用いる多様な社会資源の理解と活用方法。	
	第5回	在宅看護/訪問看護事業所の仕組み	訪問看護事業所の法的定義、役割、機能、訪問看護システムの理解。	
	第6回	療養者/家族の支援と協働 ①継続看護と退院支援	在宅ケアチームの構造、他職種連携、継続看護における在宅看護の役割。	
	第7回	療養者/家族の支援と協働 ②継続看護と退院支援	他医療機関から在宅への移行支援の過程と地域連携バスの意義。	
	第8回	在宅看護におけるリスクマネジメント	在宅看護におけるリスクと予防、特に感染管理と権利擁護の理解。	
	第9回	地域包括ケアシステムとケアマネジメント	地域包括ケアシステムの理解とケアマネジメントの背景と意味の理解	
	第10回	在宅における対象者別看護①	療養者(高齢者、小児、難病、精神疾患)の主な健康課題の理解。在宅療養支援の手法の理解。	
	第11回	在宅における対象者別看護②	がん療養者のための在宅療養支援と終末期看護の特徴と実際の理解。	
	第12回	在宅における対象者別看護③	在宅療養を支える医療機器の実際と活用の理解。	
	第13回	在宅における対象者別看護④	被災地域における長期的な在宅看護ニーズと在宅における災害時の対応の理解。	
	第14回	在宅における対象者別看護⑤	被災地域における長期的な在宅看護ニーズに対応する人材派遣、各種システムの理解。	
	第15回	在宅医療システムの実際と課題	在宅療養を支えるための医療システムネットワーク構築、連携の実際と課題の理解。	
	試験	期末試験		
授業の進め方	学生の理解状況などにより講義順番の変更・調整あり			
授業外学習の指示	講義資料はmanabu@IMUからダウンロードすること。 (授業外学習時間: 毎週 分)			

教科書	1)スーディ神崎和代、編著:在宅看護学講座 ナカニシヤ出版(2015)ISBN978-4-7795-0710-6 2800円
参考書	1)実践事例で学ぶ介護予防ケアマネジメント ガイドブック 中央法規出版
参考URLなど	
その他	統合分野 在宅看護学